

氏名	岡 本 誠
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲 第 1276 号
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（二）専攻 （学位規則第 4 条第 1 項該当）
学位論文題目	気管支喘息の発症に関する研究 第 1 編 喘息患者におけるHLAによる遺伝子要因の検討 第 2 編 喘息患者におけるサイトメガロウイルス抗原によるリンパ球幼弱化反応の検討
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

気管支喘息は種々の因子がからみあって発症する多因子疾患としてとらえられている。第 1 編ではその因子のひとつとして遺伝子因子，特にHLA（Human leukocyte antigen）に注目して検討し，中高年発症型喘息患者群，難治性喘息患者群，カンジダに対するリンパ球幼弱化反応亢進喘息患者群に共通して，DR53の出現頻度が有意に高いことから，DR 53が中高年発症型難治性喘息の発症に重要である可能性が示唆された。また第 2 編では気道感染からサイトメガロウイルス（CMV）に注目して，CMVに対するリンパ球幼弱化反応（CMV-LTT）と喘息の関係を検討し，気管支喘息患者は健康人に比し，CMV-LTTのstimulation index（SI）が有意に高値であった。またCMVに対する血中抗体（CF：Complement fixation）とCMV-LTTの間に有意な正の相関が認められ，IgE高値群（100 U/ml以上）は低値群（100U/ml未満）に比し，SIが有意に高値であった。

以上の結果からCMVが気管支喘息の発症にリンパ球の活性化を介して関与する可能性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は気管支喘息とHLAとの関係を検討したものであるが，中高年発症難治性喘息

とDR53との関連を認めている。さらに、喘息患者でサイトメガロウイルス（CMV）抗原に対するリンパ球幼若化反応を検討し、反応が有意に亢進していることを明らかにし、気管支喘息発症機序の一つとしてCMVの関与を示唆している。これらは喘息の病態解明に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。